

背景・課題

- 課題先進国である日本において、各地域が抱えている様々な社会課題を解決することこそが、**地域経済の発展（経済的価値）**や**地域住民の生活の質の向上（社会的価値）**に繋がる。
- 加えて、技術と社会とが複雑に影響し、将来予測が困難な昨今、地域の多様な社会課題解決のためには、科学技術イノベーション（=STI）により新たな価値創造を行うことが一層重要となっており、**STIの成果の社会実装による地域活性化**の観点から、**地域のSTI活動の位置づけが『必要不可欠な起爆剤』として、見直しされている**ところ。
- 加えて、国連で採択された「持続可能な開発目標（SDGs）」の達成に向けた取組は、**SDGsが掲げる社会課題の対応に際して破壊的イノベーションによる新たな価値創造をもたらすことに加え、強靱で環境に優しい魅力的なまちづくりなどSDGsを原動力として地方創成を実現し得ることから**、大学、自治体、民間企業、NPO等様々なアクターがセクターを越えて連携する取組が地域で始まりつつあるとともに、ビジネスチャンスととらえた産業界によるSDGs投資も活発化している状況。

第6期科学技術基本計画に向けた新規事業として検討中

事業概要

【事業の目的・目標】

地域が抱える**様々な社会課題**（人口減少、少子高齢化による産業の担い手不足等）について、地方自治体、大学・研究機関、企業、金融機関等の**異業種、異分野が連携し、科学技術イノベーションを活用**することで解決し、持続可能な地域経済を発展させるとともに、「誰一人取り残さない」地域社会を実現する（=**地域のSDGs達成**）。～地域の課題解決/SDGs目標達成は、イノベーション&地方創生に直結～

【事業概要・イメージ】

- SDGsの達成に繋がる地域が抱える多種多様な社会課題を、**地方自治体と地域の大学が中心となってチームを構成して見つけ出し、それを科学技術イノベーションにより解決する実践サイクルを回す。**
 - **地域の将来を担う地元の高校生**も含め、地域を構成する多様なアクター（例：自治体、大学、企業、金融機関、ベンチャー、NPO等）が、それぞれのセクターを越境し結集して、**バックキャスト・デザイン思考の効果的な組み合わせ**により地域課題を設定
 - 法的・倫理的・社会的制度等による影響も含め、**人文社会学者の知見も得ながら課題の分析を図り、その解決策を構想**
 - 課題設定段階から解決策構想の過程においては、**SDGsの達成をビジネスとして捉える（地元）企業やベンチャーの積極的参画も促す**
- 構想した解決策について、**地域内外の大学や研究機関が持つ研究シーズ**を取り込みつつ、**大学等の若手研究者・学生も巻き込みながら**、最新の学術知識をいかして、科学技術イノベーションによる課題解決を訴求する（小規模社会実装の取組）。

